

## 会長挨拶

産学官建設技術交流会副会長  
九州地方整備局 企画部長  
塚原 浩一



産学官建設技術交流会副会長を仰せつかっております、九州地方整備局企画部長の塚原と申します。どうぞよろしくお願い致します。落合会長が若干遅れられるということなので、私の方で開会のご挨拶をさせていただきます。本日は、今年度3回目の建設技術交流会ということで、年度末のお忙しい時期にも関わらず沢山の方に参加頂き、本当にありがとうございます。

東日本大震災からちょうど一年が過ぎたところで、皆様も色々な意味で思いを新たにされていることと想います。このような災害の試練を受け、我々が担っているインフラ社会資本の色々な役割、質、機能などが問われており、我々建設技術者の役割や責任を問われたり見直されたりした一年でした。かたや復旧復興はしっかりと進めて頂くようにするところですが、九州地域としてはまだまだ発展のためには社会資本整備のニーズは高く、厳しい予算制約の中でこれを進めていくということが、我々には求められています。そうはいいつつも、九州地域としても当然様々な災害のリスクであったり、少子高齢化であったり、社会資本の老朽化であったり色々なリスクがあるわけですから、そのようなものを克服していくことも我々に課せられた大きな責任であると思えます。そういう意味は、地域の建設技術を担う方々がこのような形で分野の垣根を越えて集まり、切磋琢磨する場というのは大変重要なことではないかと思えます。そのような中から、新しいものが生み出され、九州地域を元気にし、九州から日本を元気にしていくという気持ちで様々なことに取り組んでいこうと思っているところです。本日のテーマですが、「地場の技術」ということで、今申し上げたような趣旨に合うテーマと思えます。新技術活用の促進というのは、国交省としても一生懸命取り組んでいます、色々な課題があります。その意味では、この会で充実した意見交換をさせて頂ければと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。

### 《プログラム概要》 H24.3.14

●挨拶：九州地方整備局 企画部長 塚原浩一

●話題提供

#### ①地場技術および技術振興支援施策の概況

九州地方整備局企画部 楠本 敦

#### ②NETIS 登録技術の事例

エムシー産業(株) 相浦敬次郎

(株)ヤマウ 小嶺 啓蔵

日本建設技術(株) 松尾 保成

●会場を交えた意見交換：

「九州の技術・産業振興に向けた地場技術支援のあり方」

コーディネーター：熊本大学大学院教授	大谷 順
宮崎大学工学部教授	原田 隆典
九州工業大学大学院教授	山口 栄輝
九州地方整備局企画部長	塚原 浩一
九州地方整備局企画部	楠本 敦
北九州市技術監理室技術企画課長	上田 浩
(社)日本建設業連合会九州支部	中西 隆夫
(社)建設コンサルツ協会九州支部	二宮 雄司



【交流会の開催状況】



【落合会長の挨拶】

## 話題提供①「地場技術および技術振興支援施策の概況」

九州地方整備局企画部 楠本 敦氏  
楠本氏は、行政側としてのNETISの活用状況や新技術の位置づけ、評価方法等について説明をされました。九州でのNETIS登録新技術活用率は、全国目標30%に対して36%と上回っていることや、平成22年度の国と縮減効果が35億円あったことを紹介されました。また、平成22年度に確認できた効果が大きな技術活用例についても2件紹介されました。九州での地場企業の登録技術は176、その内優良技術は10技術とのことでした。最後に、地場企業による地域課題解決に有効な技術開発を大臣官房が公募している等の情報を紹介されました。



## 話題提供②「NETIS登録技術の事例」

エムシー産業(株)相浦敬次郎氏  
相浦氏は、九州発の技術で全国での実績も増えつつあるスチール透水蓋工法について紹介されました。その中でNETISのインセンティブ制度の効果や佐賀県のトライアル制度活用について紹介されました。また、全国展開する直接の切掛けとなった日建コンストラクションへの掲載も効果が大きかったとのことでした。マスコミの活用がいかに有効であるかということでした。開発企業として、現地での指導や逆に現地からの生きたアドバイスを得るなど今後も努力されるとのことです。



## 話題提供②「NETIS登録技術の事例」

(株)ヤマウ 小嶺 啓蔵氏  
小嶺氏は、アクアボンドSやFAボックス&ウイングなどNETIS登録されたプレキャスト製品について紹介されました。直轄での工事実績はあるのに活用報告書が提出されていない理由について言及され、製品利用者である施工業者の認識不足やメーカーとしての働きかけが不足するなどの反省点が示されました。それと同時に発注者による活用実施報告書について情報開示を行ってほしいとのことでした。また、プレキャスト製品の採用が少ない原因について、経済比較において直接工事費のみでの比較ではなく、省力化により経済効果が反映される工事価格で比較してほしいとのことでした。



## 話題提供「NETIS登録技術の事例」

日本建設技術(株)松尾 保成氏  
松尾氏は、多目的環境材料であるミラクルソルについて紹介されました。NETIS登録や地方自治体のトライアル発注での採用が受注に繋がることや、大学との共同研究の重要性などを話され、経産省や農水省関連の異分野との共同開発事例についても有明海底耕耘事業などを例に紹介されました。また、テレビでの紹介が切掛けとなり、水産養殖用濾過材としての利用など思わぬところでの新技術の活用を見いだせたこともあるなど、マスコミの力を改めて認識されたそうです。今後世界に向けての市場開拓につなげてゆきたいとのことでした。



## 会場を交えた意見交換

### ～「九州の技術・産業振興に向けた地場技術支援のあり方」についての意見交換～

今回は、熊本大学大学院教授の大谷順氏をコーディネーターとして、上記テーマについて会場を交えた意見交換を行いました。前半では、話題提供していただいた技術振興支援施策やNETIS登録技術の事例について、アドバイザーの方々にそれぞれの立場でご意見をいただき、地場技術を広めてゆくために何をすべきか、社会ニーズへの対応をどのように進めてゆくべきか、九州という地域特性を活かすにはどうすべきかなどについて、会場を交えた活発な意見交換が行われました。また、後半では少し視野を広げ、九州の建設業界を盛り上げるにはどうすべきかについて、キーワードとして情報の共有、目的の共有、活動の共有をあげ、それぞれについてアドバイザーや会場からご意見をいただきました。最後に、座長からの三つの提言として、①継続的な情報共有システム構築、②土木技術者についての広報活動、③施設共有について産学官連携、のそれぞれの検討を挙げられました。



大谷 順氏



【会場からの発言】

### 【発行者】産学官建設技術交流会

- 事務局
- 官＝九州地方整備局企画部機械施工管理官  
TEL：(092)471-6331 FAX：(092)476-3483
  - 学＝九州大学大学院工学研究院  
TEL：(092)802-3372 FAX：(092)802-3372
  - 産＝(社)九州建設技術管理協会  
TEL：(092)471-0189 FAX：(092)414-0767  
E-mail:kouryukai@kyugikyoo.or.jp